

各地の話題 丸森町

2025年1月1日号掲載



台風被害乗り越え集落営農法人を設立

令和5年9月10日に、丸森町羽生地区の農業者62人が組合員となり、(農法)羽生ファームまるもりを設立。現在は水稲30haとブロッコリー40aを栽培している。

羽生地区は2019年の「令和元年台風19号」で、建物や農地が水没する甚大な被害を受けた。「地区の集会所の屋根まで水が上がった」と代表理事の佐藤栄機^{えいき}さんは当時を振り返る。周囲は復興を諦めかけたが、佐藤さんは「俺が引っ張っていく。みんな協力してくれ」と鼓舞した。

令和3年に農地が復旧し、営農が再開したことで基盤整備や法人化の話合いが始まった。同年8月から始まった基盤整備事業で10a区画が多かった地区の水田の大規模化を進めていたが、担い手の減少や高齢化が進んでいたため、令和4年9月からは、法人の設立検討委員会を発足し、設立に向けた取り組みを本格化させた。

佐藤さんは「農地の区画整理が完了するまでもう少し。次の世代にバトンを繋ぎたい」と明るく語る。

組合員の集合写真（画像前列左から1人目が佐藤さん）



週に一度、組合員が集まり話し合いを行う。



【記事提供】丸森町農業委員会